

## 令和元年度第3回亀岡市総合計画審議会策定部会 議事要旨録

日 時：令和2年2月17日（月） 15時10分～17時10分

場 所：亀岡市役所 3階302・303会議室

出席者：鈴木康久部会長、川勝啓史副部会長、青山公三委員、岸耕二委員、楠善夫委員、  
坂本信雄委員、多胡麻衣委員、三宅基子委員

欠席者：大石慶明委員、内藤登世一委員、山口みどり委員

次 第：1. 開 会

2. 議 事

(1) 基本構想（素案）について

・構成について

(2) 土地利用の基本方針について

3. 報告事項

(1) 「地域別まちづくりへの意見」について

4. 閉 会

### 1. 開 会

・進行を部会長にお願いする。

### 2. 議 事

(1) 基本構想（素案）について

・構成について

—資料No.1に基づき事務局説明—

#### 部会長

- ・議論の1つ目として、基本構想の骨子（スケルトン）がこれらの内容で良いかである。
- ・内容についても、意見をいただきたい。

#### A 委員

・骨子はこういう方向かと思うが、問題は内容である。第2章「亀岡市を取り巻く社会経済の潮流」とあるが、亀岡市特有の問題ではなく、一般的な話題になっている。亀岡市固有の環境問題や経済的な問題点などを記載すると良いのではないか。

#### 事務局

- ・世界的、全国的問題を踏まえた上で、亀岡市として今後どのような取組をして行くかを示したい。
- ・亀岡市ではプラゴミについて施策を取り組んでいるところなので、この点を整理していきたい。

#### **部会長**

- ・前回の策定部会において、京都先端科学大学やAIなど、科学的な分野を上手く書き込むべきといった意見があった。これらも特性として書き込むことができれば良いと思う。
- ・今後10年で国際化がより進むであろう。どう対応するのか、潮流で記載できればと思う。
- ・環境について書き込む必要もあるであろう。

#### **B 委員**

- ・資料No.1では第4次と第5次が対照となっているが、第4次の第1部第1章の下段にある空白箇所はどのような意図でされているか。

#### **事務局**

- ・第4次で設けていなかったものである。第5次と比較するにあたって、あえて空白を設けている箇所である。

#### **B 委員**

- ・第5次の第1部第3章では「亀岡市のまちづくりの進展」として、京都縦貫道やスタジアムについて記載があるが、これらは完成している。これらを省くか、「亀岡市のまちづくりの進展」に係る課題を挙げる等をしてはどうか。

#### **部会長**

- ・進展の記載は、過去のものを整理する意図かと思う。

#### **事務局**

- ・第5次を作るにあたっては、現行計画である第4次総合計画期間中に、どういったまちづくりが進んできたか、及び現在の社会潮流を踏まえ、これからのまちづくりの展開を示していきたいと思っている。ご指摘を踏まえ、表現は考えていきたい。

#### **部会長**

- ・これまでとこれからのについて、項目を2つに分けるとわかりやすいのではないか。

#### **C 委員**

- ・計画内にメリハリを出すために、第2部第3章「重点テーマ」で、プラごみ等重点的なものを示してもらえれば良いかと思う。
- ・全体的にトーンが弱く感じる。特に産業の捉え方や問題点について示されていない。亀岡市の置かれている産業・雇用の現状把握をして記載することが重要ではないか。

#### 部会長

- ・第2章「亀岡市を取り巻く社会経済の潮流内」に地域経済に関する記載がないことによるご指摘だと思う。

#### D 委員

- ・私もC委員の意見に賛成である。今後内容を書き込む中でメリハリがついてくるのではないかと思う。
- ・第2部「まちづくりの展望」においては、「このようなまちを目指します」といった、展望を示す強い言葉が必要だと思う。
- ・亀岡市は京都市の隣にあり、流されている印象がある。そのため、輝きを持った方向の決意表明が必要だと思う。市民の方や産業が京都市に負けないといった気持ちになる方向性を示してほしい。
- ・また、「少子高齢化」とワンワードで表現するのではなく「少子化」と「高齢化」は別物であると意識を持ち、総合計画内で取り組んでほしいと思う。
- ・国立社会保障・人口問題研究所では、いくつか人口パターンを示しているが、その他にも調査を行っている。調査の一つとして、結婚した方向けで、希望する子ども数や、産んだ人数、また、希望する子ども数に達していない場合は、子どもが欲しいかといったアンケートがある。日本において、予定する子どもの数に達していない人へ、子どもが欲しいかと質問をしても、半分ほどが欲しくないという回答であり、半分は諦めている状況である。
- ・別の調査にて、諦めた理由が、教育費がかかる旨や、親の働く環境や子育てのバックアップが整備されていないといったことがあげられた。
- ・亀岡市のアンケートで、少子化に関わる設問があれば、国や京都府の傾向に対して、亀岡市の傾向を「亀岡市を取り巻く社会経済の潮流」で示すことができるのではないか。亀岡市の合計特殊出生率は、約1.3であったが、ベッドタウンにしては低い。その理由が紐解けるのではないだろうか。
- ・日本全体の例であるが、結婚している人は2人ほど子どもを持っているものの、親と同居し、結婚していない30代~40代が多く、出生率を下げているということはある。そういった人が家から出るほうが、出生率が上がるのではないかとも言われる。細かい分析によりどういった政策を打てば少子化が克服できるのかわかる。総合計画の策定にあたっては、数字に基づくことは大事である。必要であれば、ピンポイントの調査を実施してもいいのではないか。

- ・例えばだが、少子化を解消する、といった意欲を示すことは、第5次の都市像やキャッチフレーズに繋がり得る。データを分析する中で、書き込むべきことを整理してほしい。

#### 部会長

- ・「少子化」と「高齢化」は対策が異なるため、「少子化」と「高齢化」を分けることについては検討いただきたい。
- ・少子化に関連して、結婚に関して、出会いの場がないという意見があったと思う。

#### E 委員

- ・亀岡は水害がある地域であると思う。そのため、安全・安心のまちづくりが重要と感じる。災害に強いまちづくりというのをどこかに書き込んでほしいと思う。
- ・災害に強いまちという基礎があつてこそ、仕事ができ、暮らしが楽しめるものだと思う。

#### D 委員

- ・賛成である。初めて亀岡に来たきっかけは、セーフコミュニティで先進的な取り組みをしていることであつた。ある自治会の元会長にお話を聞くと、その自治会以外にも安全・安心のための取り組みをしているとのことで、素晴らしいコミュニティだと思った。安全安心やセーフコミュニティというのはキーワードとして入れたいと思う。

#### 部会長

- ・第5次における第1部第3章「亀岡市のまちづくりの進展」がハードに関するものばかりになっている。セーフコミュニティやガーデンミュージアム等も記載いただきたい。
- ・第2部第1章にある「目指す都市像」が最も重要であると思うが、進展を踏まえて議論に入っていきたいと思う。

#### F 委員

- ・先ほどの少子化と高齢化の話と重なるが第2部「まちづくりの展望」に、人口を増やすや、少子化を止めるといった決意表明を盛り込んでほしいと思った。そうすることで、子どもを産む世代が住みたい、と思ってもらえるのではないかな。
- ・第1部第4章で人口の見通しを示すだけでなく、なにか増やす方向性を示すことができないかな。

#### 部会長

- ・選ばれるまちをつくるために、何か示す必要があるのではないかな、また、特に子育て世代や、それより前の若い世代に対してメッセージが必要ではないかな、とご意見をいただいた。

#### 副部会長

- ・定住人口やにぎわい人口の目標があつてこそ、少子化や高齢化に対する方策が出てくるものだと思う。また、市民にとってわかりやすいのではないか。
- ・人口目標は、会社における売上目標であると思うので、人口の目標設定について検討いただきたいと思う。

#### 事務局

- ・人口について、第2回策定部会にてご意見をうかがったところである。目標を定めないと決定はしておらず、市内部でも検討中である。第5次における人口の捉え方として、(1)推計を示す(2)推定人口に幅を持たせる(3)目標値を示すといった3つの案を、他市の状況も捉えながら検討をすすめているところである。
- ・第2回策定部会において、人口目標を定めないことによる他の個別計画への影響も懸念いただいていたが、十分調べたうえで検討していきたい。
- ・第1部の「はじめに」に関する議論をいただいたが、第1部は、第2部の「まちづくりの展望」を示すにあたっての序章として位置付けている。
- ・第2部に10年後どのようなまちを目指すのか、また、なにを重点に進めるのかを書き込んでいきたい。「安全・安心」の話もあつたが、第4部「施策の基本方針(施策の大綱)」はもとより第3部「重点テーマ」でも示すことを検討していきたい。

#### 部会長

- ・これからの検討事項ということで受け取った。

#### 副部会長

- ・人口見通しの中に、高齢化の進展や、社会保障費の増大も含まれるだろう。今後も持続可能なまちとなるためには、人口は大事であることから、見通しを書き込むようにしてほしい。

#### C委員

- ・今日は人口のことを議論するものと思っていたが。

#### 部会長

- ・前回の議論を踏まえた市内部での議論が、提示できるところまでできていないと思う。

#### 事務局

- ・そうである。

#### 部会長

・第3部の重点テーマには4つの空白があるが、これについても意見をいただければと思う。また、資料No.1について意見があればいただきたい。

#### C 委員

・提供資料を配布いただけるか。

—事務局から、C委員提供資料が配布される—

#### C 委員

・次回以降、定住人口をどう見積もるかの議論があると思う。その際の参考としてほしい。表5-1「人口移動の要因分析」は、人口がどのような状況で移動するか、分析したものである。大都市に人口が流れるのは、職場があることや所得が高いことなど、所得要因が移動に大きく影響している。加えて、「自治体の選好要因」に、注目してほしい。以前、日本経済新聞に行政サービス比較がされており、これらに基づいて計算を行った結果、行政サービスがどれほど行き届いているかについても移動の要因として高く、移住者を増やす取組に繋がる。そのため、行政サービスの水準をどう高めるか、数値的なデータに基づき進めてほしい。

・表7-1「行政サービスの住民と非定住者の料金格差」について調べたものである。ガレリアなどの会館において、住民と非定住者で料金格差を設けるか否かについては、議論の余地があるだろう。料金格差がなければ、市外からより人を呼び込むことができるが、格差を大きくすれば外から人を呼び込むことができない。行政サービスの水準にも関わるため、格差を設けるほうがよいのか、よくないのか、検討すべき。

・亀岡市の火葬料金について調べると、亀岡市民と非定住者では4倍の料金格差があった。なお、京都市では5倍の格差であり、10倍ほどの格差がある自治体もあった。行政サービスのありかたを検討することで、住民の移動活発を促すことができるのではないかと思う。

#### 部会長

・どの年代層に対して打ち出すのか、決めていかないといけないと思った。  
・例えば、子育て世代やより若い年齢層に対して、行政サービスの格差を作るような戦略を立ててはどうかということが重要だと言っているのではないかとと思う。

#### C 委員

・今日の段階で、どの層へ打ち出すか確定することは難しいと思う。

#### 部会長

・行政サービスのメリハリは重要で、これが将来像とともに重点テーマに重なってくるかと思う。

#### A 委員

- ・今の議論が重点テーマに関係し、今後議論が必要だと思う。少子化・人口減少をどう食い止めていくのかを前提に、住みやすく、安全安心に住むことができ、子育てがしやすいまち、また、若い人が仕事をし続けることができるまちを、どう作っていくかが重点テーマの1つになるのではないかと思う。
- ・京都先端科学大学は、亀岡市内唯一の大学である。地元や周辺地域だけではなく、九州や四国からも学生を集めていかないと、大学が成り立たない時代になりつつある。しかし、大学周辺が住みやすい環境とは言い難い。空き家があっても、学生向けではないことや、買い物に行くだけでもバスや原付バイク、車が必要な状況であることがあげられる。大学生が来て魅力があるまちへ考えていけないかと思う。大学生が住みやすいまちは、子育て世代や健康に不安を抱える高齢者にとっても住みやすいまちになるのではないかと思う。そういった方向が重点テーマに具体的に入ってくれば良いと思う。

#### D 委員

- ・本日の資料に都市計画マスタープランが入っている。これを踏まえた議論が求められているのかと思う。

#### 事務局

- ・次の協議事項の参考資料として添付している。

#### F 委員

- ・亀岡は安全・安心であると話があった。私の子どもは、高校へ通学するのに駅まで自転車で通っているが、道に歩道があるわけでもなく、夜も暗い道を走っているため、とても怖いと言っている。
- ・亀岡では平成24年に悲しい事故もあり、交通事故に関して特にシビアに考えている。歩く人といった、弱い立場の人が安心してどこにでも行けるまちづくりであってほしい。私も車の運転はするが、交通弱者の視点でまちづくりをしていただきたいと思う。

#### 部会長

- ・次の会議で重点を決めていかないとスケジュールも厳しいので、意見を願う。
- ・重点テーマを考える時間はあるものとおいてよろしいか。

#### 事務局

- ・重点テーマの事務局案を示す中で、それについて意見をいただきたい。

#### 部会長

- ・目指す都市像が出てくる中で重点テーマも出てくる。逆のケースもあり得ると思う。潮流に書かれる内容も変わってくるかと思う。相互的な関係がある。
- ・第1部第2章「亀岡市を取り巻く社会経済の潮流」においては、亀岡市独自の潮流を書いているだけではないかと思う。個人的には、選ばれる亀岡であってほしい。私はかつて宇治に住んでおり、居住地として亀岡を選んだ理由は実家への近さ、価格、自然環境などである。JRで京都から亀岡にきたときの世界観の変化も素晴らしいまちだと思っている。
- ・潮流は、経済・文化的な側面も書き込みながら、目指す都市像とともに重点テーマがつながってくるような中身としていただきたいと思う。

## (2) 土地利用の基本方針について

—資料No.2、参考資料に基づき事務局説明—

### 部会長

- ・土地利用について追記すべき事項や意見はあるか。

### A 委員

- ・これまでの基本構想の流れを踏襲しつつ、内容を示されているかと思うが人が見えない。
- ・これらを進めていくことで、どれだけ住みやすくなるのかが示されると、次の重点テーマにつながるのではないか。可能な範囲で記載いただければと思う。

### 部会長

- ・交流軸や地域拠点をそのまま踏襲されている印象である。

### D 委員

- ・交流軸の考え方が示されている。市でどうにかできるものではないかもしれないが、また基本構想に書き込む必要はないかもしれないが、例えば地域交流軸の中に、新たなモビリティ技術を導入する試みがあることを書き込むのはどうか。湯の花温泉と亀岡駅、保津川下りを繋ぐ、自動運転を始めていくことで地域のモビリティの向上を図ることができると思う。
- ・鉄道沿線や国道沿線は動きやすいが、例えば篠-千歳間といったそうではない場所の交流はあるのだろうか。地域交流軸だけではなく、ネットワークの手段を整理し、書き込むことができれば良いのではないか。

### 部会長

- ・次の報告事項である地域別まちづくりの意見も踏まえながら、枠組みと具体的な話へ議論したい。報告を願う。

### 3. 報告事項

#### (1) 「地域別まちづくりへの意見」について

—資料No.3に基づき事務局説明—

##### C 委員

- ・国土交通省はコンパクトシティを掲げている。亀岡市は広域的な地理環境であり、コンパクトシティに目を向けることは難しいが、2045年には人口が7万人を切っていることが想定される中、行政コストとしてカバーしていけるのか。コンパクト化を強く進めていく必要があるのではないかと。
- ・行政サービスを受ける側である市民が、今まで以上に負担する気持ちがあれば、今までの広域的な行政で良いかもしれないが、負担をより少なく、サービスの質の向上を求められることが予想され、難しいものだと思う。そのためコンパクトシティを考慮しなくてはならないのではないかと。

##### 部会長

- ・JR4駅を都市核として集約していく中で、コンパクトシティの方向は重要だという意見である。
- ・住民の方から交通に対する意見が多くある中、交通手段が必要になってくる。コミュニティバスだけでなく、AIなどの方策も視野に入ってくるのではないかと。

##### C 委員

- ・資料No.2の2ページ「ア. 快適な住宅地域」についてだが、現行の「地区計画や建築協定などの取組」といった方法について、修正案では記載がない。修正案では、どのような方策を持って誘導するのか、示されていない理由はなにか。

##### 事務局

- ・文言については検討させていただき、次の説明時に示す。

##### 部会長

- ・都市計画を担当する部局が書いたという理解で良いか。

##### 事務局

- ・総合計画が最上位計画であるため、事務局が作るということはしていない。個別計画に影響するため、担当部局と調整する中で案を示しているものである。

#### 部会長

- ・ 亀岡の土地利用は、「川」に関する土地利用がある点と、交流の軸を中心に置いている点が魅せるべき点かと思う。

#### D 委員

- ・ 都市計画をしていたことがある。委員指摘の「地区計画」や「建築協定」については、新しい市街地を開発していくプロセスにおいては、そのような発想もあったと思う。最近の亀岡は、住宅団地が次々できるような状況ではないだろうと思う。そのような中では地区計画により、公共空間を確保し、壁面をセットバックするようなまちづくりの方向では現状に合っていないと思う。
- ・ 個別計画における中心市街地の記述の中で、手法として地区計画や建築協定を記載することもできると思うが、亀岡市の中心市街地では使えない状況かと思う。これからは中心部でも空き家が出てくる状況であり、空き家をどのように活用していくのかを記載したほうがよいと思う。

#### 部会長

- ・ 都市計画部局に伝え、検討願う。
- ・ ゾーン別地域別振興構想についての意見はいかがか。市街化調整区域における宅地について、検討いただければと思う。

#### 副部会長

- ・ 今の市長に変わってから、各施策において工夫されている。人口集積や工業集積、開発が増えているかと思う。今のやり方はいい方向で進んでいると思っている。

#### 部会長

- ・ 駅北は、これから期待できると思う。

#### E 委員

- ・ 全国的に人口減少の中、亀岡市でも人口減少が進むだろう。そのような中で、バラ色の話でいいのか。それぞれ地域が良くなりたいという思いを持っていることは理解できるが、素晴らしい絵を描きすぎること懸念がある。できないことはできないものとして出すことも必要ではないか。
- ・ どの市町村でも、人口を増やして雇用を増やすといった話をしているが、実態はそうでないと思う。亀岡も10万都市を目指しつつ9万人を切っている実状である。夢に寄りすぎないことも重要ではないか。

#### 部会長

- ・大事な意見だと思う。

#### C 委員

- ・計画は信頼が重要である。総合計画で予算の裏付けを盛り込むことが、理想的ではあるが、そこまで割り振りができていないのが多くの自治体に共通していると思う。だからこそ住民の信頼が大事であり、信頼がないと絵に描いた餅になる。本当かな、と市民が思うようになると、その計画は意味がなくなる。市民から信頼を得ることができる計画にすべきである。

#### D 委員

- ・以前アメリカに住んでいた。テネシー州チャタヌーガというまちは、1970 年後半から 1980 年前半、アメリカで最も汚れた街とされていた。人口は 10 万人ほどで亀岡市と同じ規模であり、真ん中に大きな川が流れているところも似ている。街・空気・川が汚く、人口がどんどん減っていた。
- ・1980 年半ばに市民が立ち上がり、チャタヌーガ大学の力を借り、「チャタヌーガフューチャー」という計画を役所や地元商工会、高校生とともに作り、34 のプロジェクトを作成した。
- ・当時は夢物語のようなものとして揶揄もされていた。現実的な問題であるお金をどうするかなどの議論を進め、34 のプロジェクトが 2000 年前半にかけ、着々と成果を上げた。そして知的労働者が住みたいまちとして選ばれるようになっていく。人口は減少から横ばい後、上向きになった。その周辺では人口が減っているまちもあったが、チャタヌーガは、生活環境、産業基盤や社会的な問題、歩道や公園を、お金の算段も含めつつクリアして行き、汚いまちの汚名返上を果たしたものである。
- ・数字の裏付けは大事であるが、なんらかのビジョンとともに、みんなで作っていくプロセスも重要になってくると思う。役所のお金だけではなく、様々なところからお金を集め、市民のパワーとともに提案がされたことでできた。
- ・自分たちが行う、といった意識を持つと、このようなことができるかもしれない。期待も持ちながら作っていきたいと思う。若い人の未来を考えることは必要である。

#### 部会長

- ・目標を「人口」として出すだけではなく、このような夢の描き方もあるとご紹介いただいた。
- ・チャタヌーガでは知的労働者を対象にしていた。

#### C 委員

- ・それに対する実効性も重要かと思う。

#### B 委員

- ・人口が減少するとまちの活気がなくなるのは紛れもない事実である。

- ・人口を増やす方向の施策と同時に、交流人口の増加を狙う施策も必要。観光入込客について、平成29年は292万人、平成30年は300万人近くと言われている。
- ・新型コロナウイルスの影響により、現況はインバウンドが極端に減っている。東京オリンピック・パラリンピック、ワールドマスターズゲームズ2021関西、大阪・関西万博が控えている中、東京や大阪に来られた観光客を京都や亀岡、丹波地域に誘客することはまちの活性化に繋がる。また、来られた方に亀岡はいいところだと思っていただけるよう、おもてなししたい。
- ・スタジアム内の大河ドラマ館の入場者は現状19,000人である。目標は50万人であり、難しい部分もあるが、相乗効果で誘客をすすめていきたい。亀岡がもっと元気になってほしいという思いで努力していきたい。

#### 部会長

- ・関係人口も重要なファクターかと思う。

#### C 委員

- ・信頼ある、市民からの同意を得るためにはどれほどの人口を掲げればよいかの議論になると思う。人口が今より増えることはあり得ないように思うが、それが市民にとっていいものでもないと思う。数字を示すとすれば、関係人口や交流人口が良いと思う。次回の議論が重要かと思う。

#### F 委員

- ・現実的な面と、理想的な面、どちらも大事だと思う。我々が計画を立てる中で、わくわくできるかどうか大事ではないか。
- ・プラごみゼロの取組が進んでいる中、他市の人からは日本で初めての取組ということでびっくりされる。保津川下りの船頭さんが主体的に川のごみ拾いをされていたことに端を発しており、熱い気持ちが続き、このようなかたちになっていると把握している。
- ・亀岡がプラごみを出さないまちになっていくのだろうと、市民としてそうだったらすごいと思う。突拍子のないことであっても、本当に実現したい気持ちがあればできるのかなと思ったので、そのような計画ができればと思う。

#### 副部会長

- ・コンパクトシティモデルもありながら、その周辺地域への移住・定住を推している。こういった正反対の考え方の中で、整合をどう図るかが難しい。
- ・ビジョンや夢について、自分たちがしてみたいことや、市民が集まってできることについて、提案し、短期・中期・長期的できることを整理し、実現できるよう示していくことが重要かと思う。

## 部会長

- ・わくわくできるようなビジョンを示していきたい。次回、将来像も示されるかと思う。
- ・骨子全体は、このまま進めてほしい。第1部第4章「人口見通し」をもう少し検討いただく。また、第2章「亀岡市を取り巻く社会経済の潮流」においては一般的な話だけではなく、亀岡市としての潮流を受け、目指す都市像へ続く内容が望ましい。
- ・重点テーマは、母親世代の問題とともに、安全・安心が重要であるとの意見があった。それ以外にも、亀岡の特徴を示す必要があると思う。議論の中で決めていきたい
- ・エリア別土地利用の基本方針は従来どおり4つのエリアで進めていく。だが、人が見えないという意見もあった。都市構造の基本方針については、「交流」と「拠点」が中心になると思うが、これで良いか、目指す都市像や重点テーマとともに、もう一度振り返ることとしたい。
- ・ゾーン別地域振興構想については、3つのエリアが示されたが、各自治会からの意見を踏まえ、検討を進めてほしいと思う。

## 事務局

- ・貴重な意見を賜り、感謝申し上げます。次回の部会は3月6日を予定している。

以上